

NATURE

ネイチャー



6 キリン

キリンは首も顔も長い。舌も長く40~50センチあって、器用に木の葉を絡め取ったり、時には鼻の穴に突っ込んで掃除したりしている



動物写真家 須藤一成

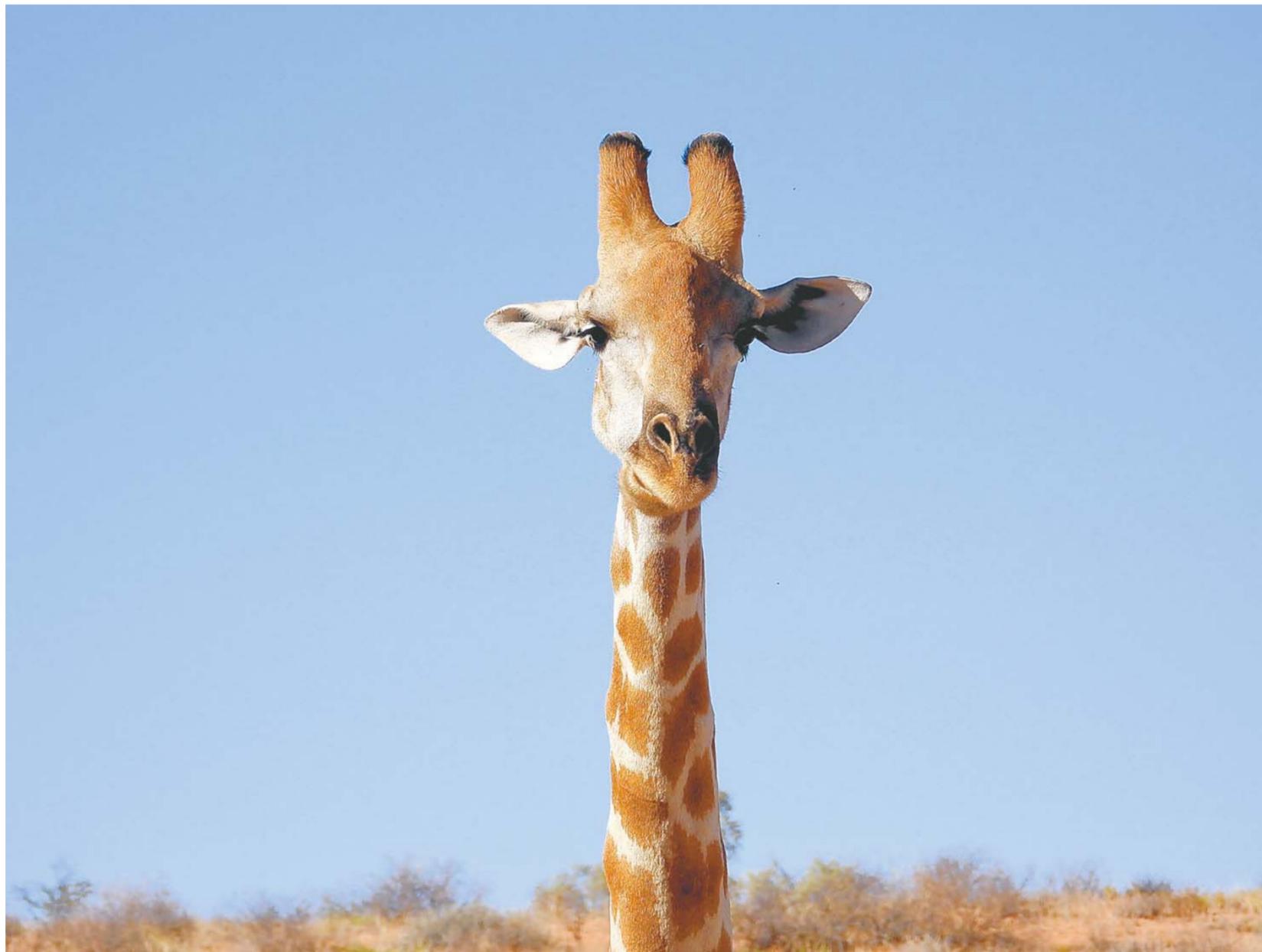
哺乳類の中で最も背が高いキリン。近くで見るとやはり聳え立つように高い。5~6メートルもある背の高さを生かして、他の動物が食べられない高い木の葉を独占して食べている。高い目線で、樹木に遮られることなく見渡すサバンナは、さぞかし壮観なことだろう。

南部アフリカのサバンナは比較的樹木が多いため、人間の目線では遠くが見通せない。時々小高い丘に登ってサバンナを見下ろすと、遠くで草を食むヌーや木陰に集まるゾウの群れ、バッファローの大群などを見ることが出来る。キリンはそんな風景をいつも見ているのだと思うと羨ましくなってしまう。

遠い地平線にキリンが立っているのを見つけた時、まわりの樹木より高く突き出した首がクレーン車のように見えた。日本ならば工事中のクレーン車かと思過してしまいがちだが、ここはアフリカの国立公園だ。双眼鏡を覗くとキリンが立っていた。長い首はいいことばかりではない。頭を前や横に倒すには、相当な筋力が必要になる。素早く小回りの利く動きは難しい。そうした首への負担を軽減するために、走る時には体を揺らさないような独特の走り方をする。首や胴体がほとんどブレることなく、時速60キロものスピードで走ることができる。走る姿は優雅で流れるようだ。



高い目線から警戒声、危機一髪で救う



キリンはいつもこんな風景を見ているのかもしれない。バッファローの群れが見える



水を飲むのは大変だ。両脚を広げ、姿勢を低くして頭を水面まで下ろす

すどう・かずなり 1961年、京都府夜久野町(現福知山市)生まれ。イヌワシに魅せられ、滋賀を拠点に日本やアフリカで野生動物の撮影に取り組む。米原市在住。写真集「Golden Eagle イヌワシ」(平凡社)、DVD「ブラックイーグル」「ツキノワグマ」など。